

**◆宮坂建設工業帯広市、宮坂秀文社長）が帯広市に車いす寄贈**

20日、高道伸専務（写真左）が市役所を訪れ、米沢則寿市長（同中央）に車いす3台を贈った。武山純総務部長が同行した。同社は社会貢献の一環として、2008年から帯広と支社、支店のある札幌、釧路の3市に車いすを毎年3台ずつ寄贈。車いすは、鉄くずなどの廃棄物を回収する業者のリサイクルポイントを活用し、購入している。高道専務は「喜んでいただけよう、今後も毎年続けていきたい」と話し、米沢市長から感謝状を受け取った。車いすは市図書館、とかちプラザ、展望ホールや食堂がある市庁舎で活用される。



**宮坂建設工業が帯広市に車いす寄贈 福祉の充実に役立てて**

長年の取組に市から感謝状

左から高道専務、米沢市長、武山総務部長

【帯広発】宮坂建設工業（帯広、宮坂秀文社長）は二十九日、社会貢献の一環として、帯広市に車いす三台を寄贈した。高道伸専務が、福祉の充実に役立てていくことを示した。

寄贈に当たっては、事務所や現場から発生した鉄くずなどの廃棄物をリサイクルポイント化する制度を活用し、米沢市長に目録を贈呈し、同社の長年取り組んできたことにも感謝の意を示した。

高道専務は「高齢化社会が進む中、福祉の充実に少しでも役に立てればと思いついたのがきっかけ。現場が動く限りポイントが貯まるので、地域への恩返しの意味も込めて、今後も継続したい」と話した。

今回の分を含めた帯広市への寄贈台数は三十三台で、札幌市、釧路市も合わせると計百一台に及ぶ。今回、帯広市では、備品登録を行った上で図書館、とかちプラザ、市庁舎で活用していくことになる。

高道専務と武山純総務部長が市役所を訪れ、高道専務が米沢市長に目録を贈呈した。米沢市長は十一日目となる同社の取組を評価し、「本市の社会福祉の向上に大きく寄与することとして感謝状を手渡した。」

高道専務は「高齢化社会が進む中、福祉の充実に少しでも役に立てればと思いついたのがきっかけ。現場が動く限りポイントが貯まるので、地域への恩返しの意味も込めて、今後も継続したい」と話した。

**車いす3台 帯広市に寄贈**

宮坂建設工業（本社、帯広）は20日、帯広市に車いす3台を寄贈した。写真は市図書館、とかちプラザ内の定住交流センター・生涯学習センター、市庁舎に1台ずつ配備し、市内の高齢者福祉の充実に役立てる。

同社は毎年、廃品回収のリサイクル制度でたまっていたポイントを活用して帯広市と釧路市、札幌市の3市に車いすを贈っている。2008年から続けており、寄贈はこれまで101台に上る。

この日は、市役所で高道伸専務が米沢則寿市長に目録を手渡し、米沢市長から感謝状を受け取った。

高道専務は市内の福祉関係者から車いすの不足を訴える声をよく聞いていることから、社会貢献活動として「今後も続けていきたい」と意味がなると話した。

